



第45回 全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会
全国大会島根大会を終えて ～だんだん～

島根大会実行委員長

濱村 洋二

(出雲市立中部小学校長)

第45回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会島根大会が、「ご縁の国しまね」「神話のふるさと出雲」において、盛大に開催できたことをまずもってお礼申しあげます。中国地区で開催されたインターハイと同時期の開催となり、参加された皆様にはいろいろとご不便をおかけしたことと思いますが、全国各地から参加された530名あまりの皆様のご協力により、暑い夏の全国大会を無事終えることができました。天候にも恵まれ、そして、この大会を支えてくださった多くの方々のおかげで充実した大会となったのではと思っています。関係の皆様、重ねて厚くお礼申しあげます。本当にありがとうございました。

島根大会では、「子供たちが自分らしく暮らしていくための支援の在り方～子供との日々のかかわりを振り返ることを通して～」を大会主題に、子供たちへの指導・支援の在り方について協議・研修を行いました。

「基調提案」「シンポジウム」「講演」「分科会」を貫く視点として「子供たちの暮らし」を置き、その視点に沿った協議・研修を行い、参加者の皆さんからもたくさんのご意見をいただきました。

「基調提案」に続く「シンポジウム」では、シンポジストの先生方のお話はもちろんですが、会場からもたくさんのご意見をいただきました。「講演」では、肥後先生から「子供の『存ること (Being) の自信』を支えることの大切さ」について熱く語っていただきました。また、「分科会」では、5つの障がい種別ごとの分科会における協議・研修の他に、「当事者・親・親の会」「管理職・行政担当者」の立場からの分科会を設け、子供たちや指導者を支える側の取組についても活発に協議・研修をすることができました。

私たちは「子供たちが自分らしく暮らしていく」とは、「子供たちが自分のことを肯定的に受け止め、自分の思いや願いをもちながら周囲の人と共に生きること」と捉え、そのような姿になることを願って支えていくことが、聴覚・言語障害教育や通級による指導の果たすべき役割であると考え、取り組んできました。

本大会が、参会の皆様にとって、また、これからの聴覚・言語障害教育、通級による指導の方向性や展望を見いだす上で、有意義な機会となりえたことと確信しております。そして、短い期間ではありましたが、皆様と同じ空間・時間を共有することができ、皆様とのご縁を紡ぐことができましたことに深く感謝いたします。

最後になりましたが、文部科学省の庄司美千代先生を始め、島根県教育委員会、出雲市教育委員会ほか県内の各市町教育委員会、関係の皆様、ご協力・ご支援くださった各団体の皆様に厚くお礼申しあげ、ご挨拶とさせていただきます。

本当にありがとうございました。 ～だんだん m(_)_m～